

編集と発行 高知県安芸郡馬路村
馬路村公民館
印刷 川北印刷所

うま

広報

人口と世帯数

(8 月末日、住民基本台帳による)

大字	男	女	計	世帯数
馬路	657	663	1,320	408
魚梁瀬	444	436	880	335
計	1,101	1,099	2,200	743

一口辞典

馬路村の面積
S. 43.7. 現在 (ha)
総面積 16,607
うち
田 41.72
畑 13.25
果樹園 10.24
山林 15,941.82
その他 497.97
(村振興計画書から)



> > > > 教育キャンプの実施 < < < <

(魚梁瀬中の生徒)

千本山の麓で、男女仲良く飯盒炊事に精出す魚梁瀬中の生徒達

災害復旧工事費など

九百七十万円追加

一般会計補正予算

(臨時議会)

臨時議会は八月三日に開催され、同日、閉会しました。
この臨時議会の主な予算計上は七月末の台風十九号による災害復旧工事などで九百七十万円を追加。
一般会計予算の累計は、一億七千九百五十万円となりました。
一般会計補正予算九百七十万円の内、主な事業として、次の事業が予定されています。

- 民生費
朝日出部落集会所建築費
朝日出部落児童遊園施設費
農林水産業費
浦木段排水路改良工事 (百二十万)
北路林道開設工事費 (六月議
会に計上との累計 二百七十
万)
- 土木費
東川比奈戸支線改良工事費 (三十五万 中員二・五万)
一谷線取付道路改良工事費 (八十万 中員三万)
- 災害復旧費
農地災害復旧費
農業用施設災害復旧費
林業施設災害復旧工事
二ヶ所などが計上されていま
す。

沖縄戦跡巡拝団員募集

一、応募のお勧め
沖縄周辺以南、洋全域に
散華された、高知県出身の陸海
の将兵一八、五
四五柱の英霊を
祀る土佐の塔が
沖縄本島に建立
せられて六年、
ご関係のご遺族
には一度は参拝
したい念願の歳
月であります
た。

沖縄返還協定
も遂に劇的な調
印を終り、来年
はいよいよ二十
七年ぶりに本土
に復帰すること
になりました。土佐の塔下に眠
る英霊の皆様も県下御遺族のご
参拝をさぞお待ちかねのことと
拝察申上げ、最後の外地として

の沖縄戦跡巡拝団を募集致しま
す。高知県知事のご厚意で一人
七千七百円、百人分を県費補助
して戴くことになりましたので
奮ってご参加下さい。

二、募集要領

一、期 日 十一月二十日
(土) 高知発 二十八日
(日) 高知帰着
二、募集人員 一〇〇名
三、団 費 一名につき三
八、〇〇〇円 (申込と同時に
納入)

四、県費補助 一名につき
七、七〇〇円 (出発時に交
付)

五、申込締切 十月二十五日
但し満員になり次第締切り
ます。

六、申 込 ご希望の方は
役場厚生係までご連絡下さ
い。

税金はみんなの

ために使われる

安芸税務署

国や地方公共団体は、道路や
住宅を造ったり、学校を建てた
り、生活に困っている人のめん
どうをみるなど、いろいろな仕
事を行っています。
このような大切な仕事に使わ
れるお金は、大部分が私たちの
納めた税金でまかなわれていま
す。昭和四十六年度の国の一般
会計予算は、九兆四千四百十三
億円で、このうち約九十%が税
金です。

社会資本の整備のために

道路、港湾、住宅、上下水道
ダムなどのように、私たちの生
活を豊かにするための施設を社
会資本といいますが、道路につ
いては、改良や舗装が着実に進
められ近代化的な道路網の整備が
図られています。

社会保障を充実するため

私たちは、思いがけない病気
にかかったり、けがをしたりす
ることがあります。
もし、不幸にしてそのような
ことが起ったとしても、医療保
険の適用を受けられますから、
安い負担で十分な治療ができま
す。
また、年をとって収入がなくな
るようなことがあっても、

このほか港湾、空港、上下水
道などの整備も着々と行なわれ
ております。

教育などを高めるために

私たちの教育は、小学校、中
学校の義務教育からはじまりま
す。が、これら公立の学校に対
しては、教職員の給料や教材費
を、国と地方公共団体とで二分
の二つ負担しています。
このほか、義務教育を受ける
すべての生徒に教科書が無料で
配られています。

このようにいろいろな費用を
含めて計算してみますと、国や
地方公共団体に負担している教
育費は、四十四年度の実績で、
小学生ひとりあたり約九万四千
七百元、中学生では約十二万二
千円、高校生では約十二万五千
九百円という大きな額となってい
ます。

地方財政援助のために

国の行なう大きな支出として
地方交付税交付金があります。
これは、地方財源のつりあいを
取る目的で、富裕な地方公共団
体には薄く、財政力の乏しい団
体には厚く配分せられ、私たち
の生活に身近な地方公共団体の
仕事に使われています。

その他

このほか、最近大きな工場が
たくさんできるため、その工場
から出る煙や、廃液などのため
水や大気汚染、騒音などの公
害が多くなっていますので、こ
れらを防止するための研究や調
査が強化されています。
また国の防衛や中小企業の振
興、貿易の促進などのためにも
多くの税金が使われています。

税金千円当りの使い途

- 国民の健康や生活を守るため
に 百七十九円
- 住宅や道路などの整備のため
に 百七十七円
- 教育などを高めるために
に 百五十五円
- 地方財政援助のために
に 二百十八円
- 国土を防衛するために
に 七十一円
- 貿易促進などのために
に 二百四十円

季節の

話題

灯下に親しむ
残暑も終わり、まだ寒さには
間のあるこのごろ、しぜん仕事
にも熱はいり、秋の夜長を灯
下に集まり、やがてやってくる
冬物のつくろいや針仕事。
子どもさんたちにとっても今
が勉強に取り組み絶好の季節で
す。ところで、どうも本を読ん
でいると、すぐ疲れて目がかす
んだり、頭や首すじが痛んでく
るという中年の人が多くなっ
てきたようです。まだ四十代だ
かと「老眼」のことはあまり考
えていないようですが、こうい
う状態の多くが、その考えても
いなかった老眼の場合が多いも
のです。老化現象のひとつであ
る「老眼」は、正常な視力をもっ
ていた人でも意外に早くあらわ
れるもので、早ければ四十歳か
ら四十五歳前後に起こります。
いちど専門医にみてもらって
視力に合わせた眼鏡をお使いに
なるようおすすめします。

本を読んでいて肩がこったり
首すじが痛む原因には視力の衰
えのほかに、読書するときの姿
勢や採光、照明にもあります。
十日は「目の愛護デー」。

日誌

7 月

- 1 日 定例議会 (一日まで)
- 10 日 総務委員会
- 12 日 共有権保全組合委員
会
- 16 日 馬路婦人会模範議会
- 31 日 産建委員会

8 月

- 3 日 臨時議会
- 15 日 馬路、魚梁瀬納涼祭
- 21 日 農業委員会
- 30 日 台風 23 号来襲

庁内人事

- ※ 新任係 (九月一日)
- 魚梁瀬保育所 前田漢子



清岡君(右)と武田君
(さくら丸にて)

(二面から)りで割に大きく、コ型の型をした家で、庭はコンクリートになっていて、刈取った「もみ」をそのままだけで干して、この家には、約40余人の家族が住んでいる。家の中は、夫婦単位に仕切られており、約7、8畳で、夫婦の寝る所だけ、日本的に言えば「かや」や「すだれ」でまわりを取りかこみ、子供は少しはなれた所で、二段ベットの所です。部屋には、裸電球が一コで、子供の勉強用に、蛍光灯スタンドがみえた。衣服等は、夫婦の寝室に置いてあり、タンス的なものは見えなかった。部屋のすみには「小用」のつぼが置いてある。窓は、一カ所小さなもので、天井には明りの取入口があったと思う。倉庫には「とうみ」もみられ、また自動車の古い物が4台あった。食事は、一カ所で食べるので、台湾では、この家の様に家族の多い家は、地位の高い家だと聞いた。一歩外に出れば汗が出るが家の中は、以外とすずしい。

昼食は、団員が2組に別れて、パーベキューと四川料理を食べる。パーベキューを食べる際に水のおかわりを頼むが、いっこうに持ってこない。水をほしがるのは日本人だけか、とふと感じた。食事の後、市内観光に出た。蒋介石總統の権威を象徴する總統府、觀音様等を祭つてある、さらびやかな龍山寺等を見学した。途中葬式等も見かけ、日本とちがって、車に緑色の杉の葉に似たものをはりつけて、パレード的に走っていた。費用は、一〇〇万円〜七〇万円位使うそうで、国でも、もっと安く行く様に指導しているそうです。約一時間の買物、商店街を歩く。歩道の上も住宅等に利用していた。商店街は看板等が中国語以外は、内容は日本と余り変らない。

中国青年との交歓会
橋光堂なる会場(県民ホール

的(な所)で行なう。会場には知事も見えていた。後の正面には蒋介石總統の肖像が目につく。相手の団体は、中国反共青年年団で、二〇〇余名の参加で、年令は中学生位で、自分達と比べると子供っぽく感じたが、会話は英語が中心です。自分達の方が押されぎみの感じがあつた。しかし年令差のために、少し期待はずれでした。団員達は、この中でも身ぶり手ぶりを交えて話し、お互いの住所交換や持参した記念品を贈ったり、なごやかな交換会だった。夕食は、豪華ホテルなる店で、ショーを見ながらの中国料理を食べる。食事もある程度で、ショーの方に目を引かれる。中国の歌等も聞きて、台湾のビールを飲む。日本と比較すると全然だめである。ホップは弱いし、泡も立たない。味もよくない等で、コップ一杯でやる。夜は桜丸泊り7月12日 天気 快晴

バスで台北市郊外の「国立故宮博物院」を見学。場所は山手の所で、さすがに中国文化を集めてある所だけあって、博物館の外観もみごとである。向いの山の中腹には、蒋介石總統の住居といわれる建物を見られた。ここには約三〇〇万点の文化遺産がある。陳列されている物は一部で、三カ月に一回取り替へられているとのことと全部見るとは、一〇年位かかるという話です。中には、青銅器、書画、玉器、陶磁器等が展示してあり、興味を惹いた。院内は、カメラの持込を禁止している。ゆつくり見たいが多量にありすぎて、浅く広くの感が強かった。昼食は四川料理を食べる予定が、中止になり、一時間前にさくら丸に帰り食事。

3時に出発、見送りは少なかつたが、もつとゆつくりできれぱとの思いがこみあが中、テープを投げ合い、船は静かに台湾をはなれてゆく。台湾の微妙な立場を考えると、

沖繩の印象

武田 義二

十三日、正午昼食を取りながら那覇に入港、沖繩はアメリカの施政権下であつて、軍港なので岸壁には、戦車、軍用トラック物資がいっぱいいます。

那覇港においても、基隆と同じように写真撮影がいささか禁止されています。

岸壁の戦時物資、港の撮影禁止などを見ること、聴くことによつて、アメリカは、沖繩は戦争をやっているんだと、言うことを強く肌で感じる事ができました。

午後二時沖繩上陸、二時間ぐらい自由研修と言う美名に名を借りて、那覇の町へ出る。

町においても、単独行動はだめなので4、5人のグループで買ひもの。那覇市には国際通りという中心街を縦断する長さ一丁の直線道路で、沖繩随一の繁華街があります。

国際大通りと言っても、名前から想像するほど、道が広くて大きなビルはありません。買物は舶来品から、国産品、沖繩名産品なんでもそろっています。

また沖繩においては免税なので非常に本土とくらべたら安く買ひ物ができます。

台湾の基隆、台北を歩いてあれが外国だと言う感じはしなかつた。その点沖繩は日本でありながら台湾より、外国の町のような感じがしました。

なぜならば、台湾は日本と同じように言葉が漢字なので、したがって町の看板その他すべて漢字なので、日本のどこかの町のような感じがします。

その点、沖繩はアメリカの施政権下であるので町にも英語の看板があるので、日本と外国の中間のような感じがします。なお中部のゴザに行けば基地の町と言われるだけであつて、英語が非常に多いです。

その夜、船において沖繩青年との交流会、六時三十分全員で船の中に入ってくる青年を拍手でむかへる。

台湾より船に乗り込んだ満洲知事の挨拶、つづいて沖繩代表の言葉、そして交換会の出し物沖繩の歌、踊りでわれわれを歓迎してくれました。

出し物が終わると、その場で交換会に入りました。

交換会は、パーティみたいな感じで、軽い食べもの、飲みものがあつて自由に意見の交換をおこないました。

沖繩と言へば基地、基地とは言へば沖繩の象徴であるように、私たちの質問はほとんどが沖繩の基地、今の現状にそしてこれからの沖繩についてでした。

経済が基地に依存していますので基地の撤退には賛成だが、基地従業員の解雇には反対と言うような、矛盾した戦いをしています。

これと言つた産業のない沖繩では、第一次産業にたよるか、本土からの企業の進出を仰いで行くか、しかし今現在東部の海岸に石油コンビナートができて早くも海が汚染されています。公害に対しての不安、これ以上に経済的な不安が大きく、沖繩のこれからは、自分たちでは分らない、返還が実現してみないうちの言うことでした。

このように約二時間あまりにわたつて非常に有意義な交換会を終りました。

十四日八時に船を出発、各班ごとに九台のバスで南部戦跡めぐり、ひめゆりの塔と言へば、激戦の地沖繩をものがたる数多い慰霊塔のなかで最も有名な塔です。団員全員が塔の前で説明をきいた後で団長の参拝をして全員の参拝を行いました。

平和、有情、師弟愛を表した沖繩師範健児之塔など南部戦跡地を廻り最後に土佐の塔に参拝全員青年の船の歌を合唱。

土佐の塔を後にして那覇で昼食を取りながら民族舞踊を見学、民族舞踊と言ふだけであつて沖繩独自の踊りでした。

昼食が終り各班別に首里城、ゴザ市の方へ行きました。

中部は基地あつての中部のような感じで、嘉手納飛行場、軍人の住宅街、米軍の物資集積所、米軍商店街、軍司令部等がありアメリカの街のような感じがします。住宅街などは一等地で土地も広々としていて沖繩の人々は二等三等地の狭い所で生活しています。

「青年の船」

伊吹 美香

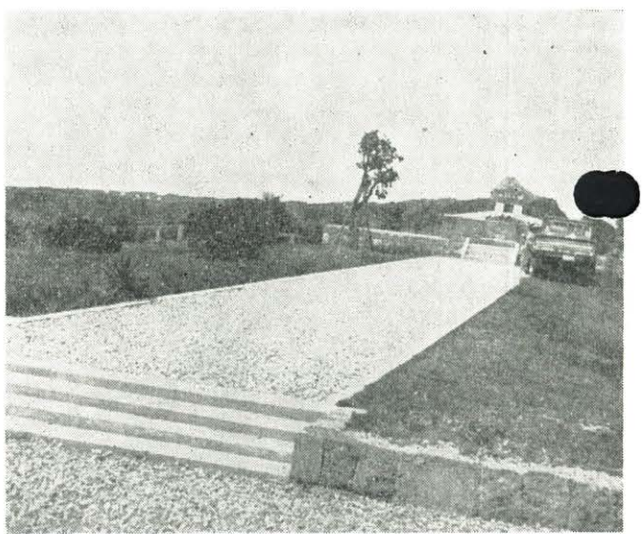


沖繩の若い人たちの交歓会が、船内の小食堂で行なわれた時、沖繩の二女性から、「この船はまるで浮ぶ豪華なホテルね。」といわれたが、確かに「さくら丸」はその形容にふさわしい船でした。ただし、男性にいわせれば、また話は別ですが、というのは女性の部屋は一部屋四人で冷房完備、洗面台、蛍光灯のついた机が2つにロッカが4つあり、2段ベットというすばらしい待遇なのに男性の寝る所は同じ2段ベットといふので、隣のベットとの区切りといへば、お世辞にもきれいなとはいえないカーテンがけの男の子もので、私の知っている男の子

などは、「想像はしていたが、女の子との差があまりにもひどすぎる。」といつてグーブグーブいきましたが、これは船の構造上、やむを得ない措置だったそうです。

さて、この豪華船の室内の案内と私達団員の生活とをあわせて説明してゆきたいと思ひます。まず、乗船の時、真先にはいったエントラールホール。隅にカウンターのような所がありすが、それが本部です。ここはすばらしく広いので、全団員を集めての本部からの伝達とか集会にも使われましたが、フオークダンス、グループの実習もここでなされました。

それからこのエントラールホールの右の少しへこんだところにある広い部屋は食堂で、エントラールホールの上の階段をあがった所の小食堂です。小食堂は



沖繩・土佐の塔

中部基地の中に町があり人々が住んでいるような感じがします。コザのショッピングセンターで買ひものがすばしば走りながら青年の家を遠くより見学、那覇港出港。

において10分位買ひもの三時半に港到着すぐ出港手続五時に交換会の時に出きた友達、バスのガイドさんたちに見送られて那覇港出港。

改まった場合に使用され、ここで船長主催のパーティ、沖繩での交歓会などがおこなわれ、小さいながらも舞台があり「青年の船まつり」の演芸会もこの上でおこなわれました。ここに入りする時、また食事をする時に正装でなくてはならず、みんなは食堂のことをレストランといつて区別をしていました。

小食堂は、4、5人ずつ坐る小さなテーブルがあり、そこに坐つていれば、ウェイトレスカボーイがやってきて、いちいち座をたつ必要がなく、すべて給仕をしてくれますが、食堂の方はセルフサービスで、みんな順番にお盆をもって食器類を取り、料理を受け取り、一、二、三人ぐらいたるテーブルで自分で給仕しなくてはなりません。しかし大部分の人達には小食堂より、大食堂の方が人気があります。大食堂だと気がねなく食事ができるけれど、小食堂だとなんとなく監視されているような感じがするからです。

しかし、「さくら丸」の食事はすばらしいと団員の間では好評でした。

まず、ある日の食事のメニューと見ると、朝一おみそ汁、漬物、海苔、おひたし、干物、玉子焼、昼一カレーライス、サラダ、トンカツ、フライ、サラダ、スープ、ネーブル夜一サラダ、ハンバーグ、パン、スープ、蒸したさつまいも、ウインナソーセージ、フルーツといった豪華なもの。あまりにも肉や果物がふんだんに出るので、肥えることよりも、この食事の費用のことを心配していたら、顧問の先生が、船の上だから、食料には税金がかからないようにになっているので安いのだ、と教えてくれたので、一回も、食事を余すことなく安心していただきました。また、この大食堂では午後九時から十時の間、ラーメン、お茶漬、お汁粉などの営業がおこなわれ、ものすごい盛況でした。その他読書室、シャワー室、浴室、洗たく室、図書室売店、それに研修を受けるための各教室がありました。

この談話室は小食堂と同じようなテーブルがいくつもおいてあり、朝七時から八時までの間高知新聞社によるコーヒーのモーニングサービスがあるので、その時間になるといつもコップをかかえた人達で満員でした。また15日は最終日の夜なので報告書を作成する人達でこの部屋は、夜おそくまでいっぱいの椅子が埋まっていた。

いつも、いっぱいといへば、売店の前も、いつも人であふれていました。この売店には、日用品、「さくら丸」特製のアイスクリーム、メイドイン・チャイナのクッキー、その他のお菓子や紅茶、また外国煙草の販売、それにジョニ黒やナボレオンなどの日本で買へば高価なお酒の予約もつけていました。女の子に人気があつたのはアイスクリームとクッキーでした。みんな暇さえあれば、売店にアイスクリームを買ひに走つていたみたい。市販されているアイスクリームよりは量は少ないけれども甲板に出て、デッキチェアに腰をかけて、潮風にふかれながら食べるアイスクリームのおいしさは格別でした。男の子に人気のあつたのは外国煙草。同じ班の男の子が吸ひなれないのに大事そうに煙草をふかしていたのを思い出します。私達団員はよく食事の後や、休憩時間になると甲板に出ました。甲板には輪投げなどの道具と123と書いてある3重の円の中にホッケーのような棒で円い板をはめ込む遊び道具が置いてあり、いつも5、6人の人がコーラやファントなどの飲み物をかけて、ゲームを楽しんでいました。

この甲板では午前6時半からの「朝のつどい」と午後5時からの「夕べのつどい」が各班交替で趣向をこらしておこなわれ、各班とも、前の班よりもすばらしいつどいしようとの対抗意識からか、いろんな奇抜なアイデアが練出し、みんなが歌ったり、踊ったり、ゲームをしたり楽しい半時間なので、これで一日の学習意欲が猛然と湧いてきます。

また、この甲板で、小雨の降る中を椅子に腰をかけてデッキランチをしたのも忘れられない思い出です。みんな思い思いのところに腰をかけて、見知らぬ人と、好きな料理をとって会話をを楽しむ。船長招待(四頁へ)

